

糖尿病と認知症

内分泌内科 医師 廣瀬友矩

認知症は日本において年々、増えてきています。これは日本の高齢化の影響もありますが、同年代の間でも、認知症の割合は増加しています。そしてこの認知症は、糖尿病によっても増えることが分かっています。

1000 人につき 1 年間に認知症を発症する人数 (60 歳以上)

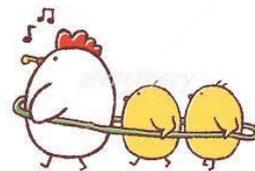


上の表で分かるように、認知症の原因の多くを占めるアルツハイマー病や、糖尿病などによって血管が詰まったりすることで起こる血管性認知症が糖尿病で増えてしまっています。また、特に食後の高血糖がより認知症に影響する可能性が指摘されています。また、低血糖や高血糖のどちらも認知症に悪影響を及ぼすことが分かっています。治療としては一般の認知症と同じものとなりますが、治療薬では認知症の症状を一定期間改善する効果までしか得られないのが現状です。



認知症を予防するためにも、
しっかりとした血糖管理を
目指していきましょう

糖尿病薬～ビグアナイド薬の注意点について～



薬剤師 大谷 早也佳

ビグアナイド薬（メトグルコ[®]錠・メトホルミン[®]塩酸塩錠など）は、1950年代から使用されている使用経験の多い薬剤です。多くの大規模臨床試験で、糖尿病合併症である細小血管症・大血管症を抑えるという報告があり、多くの2型糖尿病患者さんに使用されています。

ビグアナイド薬は“インスリン抵抗性改善薬”と言われており、主に肝臓からの糖新生を抑制し血糖値を下げます。また、末梢組織における糖取り込み促進作用、小腸における糖吸収抑制作用なども期待できます。

今回は、ビグアナイド薬を内服する上で、特に知っておいて欲しいポイントが2つあるのでご紹介します。

① ビグアナイド薬服用中にシックテイになったら？

シックテイとは、糖尿病治療中に発熱・嘔吐・下痢を来したり、食欲不振のためいつも通りの食事が出来ないときのことをいいます。

シックテイの際は、下痢・嘔吐や通常より飲水量が減るため脱水状態になりやすいです。その脱水状態になると腎臓の働きが一時的に低下し、ビグアナイド薬の尿中への排泄が遅延して体内で過剰となり、副作用が起こりやすくなります。このため、シックテイの際には服用を一旦中止し、適度な水分摂取を心がけましょう。

② ビグアナイド薬服用中にヨード造影剤を使用する検査を受ける場合は？

ヨード造影剤使用時、まれに腎障害が起こることがあります。腎障害が起こるとビグアナイド薬の尿中への排泄が遅延して体内で過剰となり、副作用が起こりやすくなります。先に示した脱水状態の時と同様ですね。

腎臓の機能の程度にもよりますが、「検査前2日、当日、検査後2日の計5日間」は内服を中止することが望ましいです。特に検査後2日間はビグアナイド薬を再開せず、尿量の減少など異常がないことを確認して再開できるといいですね。



近年、ビグアナイド薬を含有する配合剤も出てきています。当院採用ではメトグルコ[®]錠とDPP-4阻害剤のエクア[®]錠の合剤である「エクメット[®]配合錠」があります。他にも多くの配合剤が発売されており、薬の名前だけではビグアナイド薬が含まれているのか分かりにくい薬剤もあるため注意が必要です。

糖尿病チームは、糖尿病通信を定期的に発行し、皆さまに様々な情報をお知らせしていきます。

ご意見・質問等ありましたら、
内科外来受付にお声がけください♪
担当看護師がお伺いします！

糖尿病看護認定看護師
石井美香

